

---

# アンジェリーク | Zephel | 陽だまりの中で ~ angelique ~

翠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アンジェリーク―Zephe1―陽だまりの中で　　ゝangeliqueゝ

### 【Nコード】

N5889D

### 【作者名】

翠

### 【あらすじ】

【ゼフェル×リモージュ】飛空都市では女王試験が行われていた。そんななか、アンジェリークは、いじわるだけど優しい……不器用な「器用さ」を司る鋼の守護聖ゼフェルのことが気になるようになっていた。

## （前書き）

KOEIから発売されているネオロマンスゲームシリーズ「アンジェリーク」の二次創作です。

原作やキャラクターイメージを壊してしまうおそれがあります。また、ネタバレも含まれますので、それらを十分ご理解の上、ご覧いただけますと幸いです。

アンジェリークは木漏れ日を金色の髪に受け、緑の木々の間を光の軌跡を残しながら走っていた。

クラヴィス様のお庭にはおられなかったわ。だったら後は森の湖ね。

「あー、ゼフェルならクラヴィスの私邸の庭か、森の湖にいるんじゃないですかねー」

ブルーグレーの優しい瞳を細めて微笑みながら教えてくれたのは地の守護聖ルヴァ。

ゼフェルと話をしたくて執務室を訪れたアンジェリークは、彼がいないことばかりしていた。そこを通りがかったルヴァが教えてくれたのだった。

急用があるわけじゃないの、育成のお願いがあるわけでもない。でも、どうしてもゼフェル様にお会いしたいの。

どうしてこんな気持ちになるのかしら？

わからないけどゼフェル様を見ていたい。

私の話をめんどくさそうに、だけどちゃんと聞いてくださるゼフェル様を。

ゼフェルを探しながらうろついていたアンジェリークは、森が彼の為に用意したかのような空間の木の下で横になって眠っている姿を捕らえた。

そろそろとゼフェルに近づきそつとのぞき込む。

「すごく気持ちよさそうに眠ってらっしゃるわ」

固そうに見える銀の髪は風に撫でられてこそばゆそうにゆれている。

いつも見つめられると射すくめられたように体が動かなくなる綺麗なルビー色の瞳は今は閉じられて、意外と長いまつげが頬に影を落としていた。

「きれい……」

ゼフェル様ってきれいな顔してたのね。

普段じつと見てたら怒られちゃうもの、いいよね？

アンジェリークはこんな至近距離で見つめる事などいつもは叶わないので 正確には見つめているとゼフェルのルビー色の瞳でにらまれ、「なんだよ、なにか用かよっ！」と怒鳴りつけられ、あわてて目をそらしていたので この時とばかりにゼフェルを観察する。

日に焼けた肌は引き締まり、すらりと伸びた手足から以外に鍛えられてるのがわかる。彼が気にしている身長はというと、アンジェリークからすると十分見上げる高さにあるので、いったいどれくらい高くなりたいのかしらと首をかしげたくなる。

彼の意志の強さを表すかのような切れ長でつり上がりがちの目は

ただでさえきつい印象を与えてしまっていて、その上いつも不機嫌そうに眉間にしわを寄せているのですます近寄りがたい雰囲気を作っている　その時とは全く違うあどけない姿がそこにあった。

「かわいい」

アンジェリークはぽかぽかと暖かい気持ちになって自然と笑みがこぼれた。そしてゼフェルの横に座り込み、鋼の守護聖が目覚めるのを待った。

風にさらわれてなびく金色の髪を押さえながら、雲の流れる青い空を見つめる。

ゼフェル様、お話したい事がたくさんあるの。  
エリューシオンのこと、ロザリアとお友達になれたこと、主星のこと、ゼフェル様のこと。

……きつと気だるそうに聞くんだろうな。

ちらとゼフェルを見つめ、想像して思わず口元がほころぶアンジェリーク。

ふふっ。

でも、いいの。

ゼフェル様はちゃ〜んとお話聞いてくださってるもの。

不器用だけどとても優しいの。「器用さ」を与える鋼の守護聖様なのにね。

エメラルド色の瞳をゼフェルへのおしさでいっぱいにながら  
ら思いをめぐらす。

ゼフェル様、早く起きないかな……。

あ、でももつとこのまま見つめていたい。

……………。

……どうしよう、迷っちゃった。

眉間にしわを寄せながらしばし葛藤する。

ま、いつか。

どっちでも。

時間はいっぱいあるんだから、ゆっくりと、ね。

ちょうど良い木陰に気持ちいい程合いの風。

眠くならないって方がおかしいよね。

アンジェリークはひとつ伸びをするとゼフェルの横に寝転んだ。

雲が流れ太陽が位置を変えてもまだ起きないゼフェルの横で、ア

ンジェリークはずっとゼフェルを見つめていたが、いつしか眠りの  
中へ落ちていった。

夢の中でのゼフェルはアンジェリークをとても優しく見つめてい  
て、それを見たアンジェリークは幸せそうに微笑んだ。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5889d/>

---

アンジェリーク | Zephel | 陽だまりの中で ~ angelique ~

2011年1月29日02時44分発行